



あなたにおくる とっておきの えほん

ブラチスラバ世界絵本原画展 2021. 1. 5~2. 28



『山のヨーナ』 荒井良二

「山がた」くさんあるところ

歌のような語りかけの本を読んでいると、作者の出身地である山形へ J リーグの試合を見に行った時のことを思い出す。山形盆地は開けていて、遠くに月山を望むあの景色。ヨーナヨーナ、あなたの住むところもそんな感じ？ヨーナに「のびっこ」人形を渡して、ヨーナの話も聞きたいな。(Mi.T)

『もみじのがみ』 きくちちき

ページをめくると…



溢れる赤の世界に思わず声をあげました。自然に包まれたアトリエから生まれた豊かな色彩と可愛らしい動物達が、あなたを木の上や林の中、森の奥へと誘ってくれることでしょう。秋にはもみじとがまずみの実を求めて山歩きを楽しみたい…そんな気持ちになりました。(M.S)

『大名行列』 シゲリカツヒコ

さてさて、次の行列は？



子供の頃の愛読書は「人体図鑑」のシゲリさん。それでなのか、超リアルな行列が本の中を進んで行きます。…が、ページを開くたびに何か変。カラフルでありえへん世界に引き込まれていきます。そしてたどり着いた先は、「そうきたかー！」きっとあなたも叫んじゃいますよ。(Ma.T)

『うずらかあさんとたまご』 島野 雫

ホントはいい友

うずらかあさん、産んだたまごを失くしてしまう。そこにへび、カラス、オオカミと、ちょっとアブナイ感じの連中がやってくる。心配で初めはたまごのことが言い出せなかったかあさん。でも、みんな一生懸命探してくれる。かあさん思わず涙ながらにほっこり。さてさて、結末は？(K.O)

『ばけバケツ』 軽部武宏

とびこめ〜！

藍色の夜を歩く(?)怪しいバケツ、「だっばーん」と水をぶちまければ、みんなが寄ってきた！とろ〜んと広がる水にフクロウは首をかしげ、石ころもゾウも飛び込んだじゃいます。青い闇に浮かぶ蓮の花、降る巨大オタマジャクシ etc…この夜の世界、原画でもぜひお楽しみ頂きたいです。(Me.H)



『金の鳥』 さかたきよこ

ルネサンスぽくもあたらしい

イタリアの本で挿絵デビューしたさかたさん。『金の鳥』での絵も、ピエロ・デラ・フランチェスカのフレスコ画を思わせる明るい色調と丁寧なタッチです。絵本に対しクリーム色がかっている原画。また金の鳥の明るいイエローと、特集展示の鈍く光る版面の金色の対比も是非ご覧あれ。(Mi.T)

『ボンボとヤージュ』 ザ・キャビンカンパニー

はらの なか を覗いてみよう

いったい"まっしろりゅう"は何を飲みこんでいたのか、かなりシュールな場面転換。よく見たら作者の意図が分かるかな、宝物が見つかるのかな。2人が旅の最後に見たものとは？

展示作品《アノコロの国》宮殿の中にもボンボとヤージュがいます。一緒に空想の旅へ出かけよう。(K.Ku)

『コーベッコー』 スズキコージ

色の魔術師、神戸にパワーを!!

お日様に飛ばされた金星からおどりでたヴィーナスカ。神戸の上空を時を超えてヌノビキイの滝から港へ、明治から現代へ。ヴィーナスカとあくしゅをすると風見鶏のコーベッコーも空にまいあがる。お祭りだおまつりだ。みんな楽しそう。私もあくしゅしてとびまわりたいなー(M.Mori)



『わたしの森に』 田島征三

ニンゲンが脱皮すると、世界が変わるかも？



彼とは静かな森の中で会いました。カサツとしたかと思う間に茂みに隠れてしまいました。

丹沢で沢登りの時、眼前に彼が居てギョッとしたことがあります。彼も突然現れたニンゲンに驚いたことでしょう。ある時、彼の抜け殻を拾った友人は、ありがたそうに財布にしまいました。(K.N)

『くろいの』 田中清代

ステキな友だち



「ねえ、なにしてるの？」おもいきってこえをかけたら……2 人の世界はこのシーンから始まる。得体の知れない「くろいの」は喋らないが親切で行儀が良い。こんな友達も悪くない。ワクワクするような屋根裏の世界は銅版画でこそその柔らかな暗さ。原画と合わせて楽しんで欲しい。(Ma.H)



(Ma.T)

『まっくらやみのまっくら』 ミロコマチコ

何にでもなれるんだよ

ミロコさんは、いつもダイナミック。絵も、発想もダイナミック。真っ黒な中からもくもく出てきたものは、一晩中、次から次へと変化する。なんで？ どうして？ 変じゃない？ どうなるの？ 自分でも判らないのに変化していく。まっ黒の持つエネルギーを、あなたにも分けてあげたい。(S.U)

『やんばるの少年』 田島征彦

沖縄へ、メンソーレ(ようこそ)

「戦争の記憶を絵本の形で次の世代に贈る事」を念じ、「沖縄の今を知ってもらいたい」と征彦さんは願う。約 40 年取材と体験を重ねた集大成が「YouTube 的絵本」として異彩を放つ。子供にも大人にもドカン・ズシンと響く…はず。さあ～みんな～「ヤンバルでアシバナヤ～(遊ぼうね～)!!」(Ya.M)

『よるのおと』 たむらしげる

ころすまして

緊急事態宣言下の夜夜、乗客のいない電車が言いような哀しみを響かせます。この本の夜は静かな安寧さに満ちています。聞こえるのは汽車、動物、水の音、少年の心の息吹も。頁ごとに何十回も版を重ねた深く澄んだ青色が、やがて来る朝を予感させます。作者六十年の思いの一冊。(S.N)

『やもじろうとはりきち』

降矢なな



ちがっているからたのしいよー！

スロバキア在住の降矢さん。ヨーロッパでは出会うと幸運になれるハリネズミ。ヤモリは日本では家の守り神。やもじろうとはりきちは幼なじみ。気持ちがすれ違って大丈夫。はりきちのハリの一本一本に強さとやさしさがみえかくれ。葉っぱの緑にはスロバキアの絵本の面影が… (M.Mori)

『ぼくのたび』 みやこしあきこ

どこか遠くへいきたい気持ちになります

作家はリトグラフという版画手法で描いています。リトグラフで描かれているのは、この『ぼくのたび』だけです。主人公の「ぼく」が夢の中で旅に出て見る景色は、リトグラフによる美しい色彩で、幻想的で夢の中のように描かれます。それは、私たちを旅へと誘います。(S.S)